

市立病院・診療所紹介：前沢診療所

前沢診療所は奥州市南部の前沢地域にあります。『思いやりの心を持ち心身を両面から診る、頼れるかかりつけの診療所をめざします』という朝礼でのスタッフ全員の唱和で一日の診療が始まります。内科、呼吸器内科、循環器内科を標榜しており、現在は常勤医1名、非常勤医4名で外来診療のみを行っています。

医療スタッフは看護師、臨床検査技師、臨床放射線技師、管理薬剤師、管理栄養士、臨床心理士です。臨床検査はエックス



線、CT、超音波（頸動脈・甲状腺・心臓・腹部等）、骨密度、呼吸機能、簡易睡眠、負荷&24時間心電図、臨床心理検査と充実しており、再開所（2016年）後より外来患者数と医療収益は毎年徐々に増加しています。

地域医療における内科診療では生活習慣病の管理が重要ですが、そのためにはいかに患者自身がより良い生活習慣への変容を克服できるかが鍵となります。

当診療所では患者ひとり一人の個性を尊重した栄養指導体制を整えています。食生活習慣はもちろん、患者の性格傾向（行動パターン）や精神状態を評価して栄養指導に反映させる目的



で心理検査を実施し、医師・看護師・栄養士の間で共通認識を持ちながら継続的な治療支援を行っています。疾病と心理社会的因子が密接に関連している患者に対しては、臨床心理士と連携してカウンセリングや行動医学的アプローチを行っています。患者との信頼関係を重視しながら全人的医療をめざす前沢診療所で一緒に働きませんか？

連絡先：国民健康保険 前沢診療所

〒029-4208 奥州市前沢字立石 180-1

TEL0197-41-3200 FAX0197-41-3201

<https://www.city.oshu.iwate.jp/soshiki/171/>

新任医師紹介・別添の新聞記事を参照下さい

10月15日付けで衣川診療所（19床）に近藤克幸医師が着任いたしました。高橋久行所長と常勤医2人体制で衣川の地域医療にご尽力いただきます。



岩手県内の新型コロナウイルス感染の状況

県内の新型コロナ陽性者は、10月27日現在で3,486人（死亡53人）です。10月に入ってから感染者が激減し、月間感染者数が昨年10月以来の一桁になりそうです。

岩手県内の月別コロナ患者数（令和3年10月27日現在）

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	合計
感染者	3	16	4	4	167	191	111	58	67	291	530	237	323	1002	475	7	3486

年代別患者数と無症状者数 R2.3~3.10.27（単位：人）

年代・男女別感染者数 2年3月～3年10月分														
年代	10未	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90以上	合計	比率	無症状	累計比率
男性	117	192	412	313	327	220	153	103	46	15	1898	54%	312	16%
女性	113	173	297	246	227	211	114	82	79	46	1588	46%	296	19%
合計	230	365	709	559	554	431	267	185	125	61	3486		608	17%
比率	7%	10%	20%	16%	16%	12%	8%	5%	4%	2%	100%			
年代別	595人17%		2253人65%				638人18%							

大谷翔平選手の成績ボード（R3シーズン）

打者 打率 257 本塁打 46 打点 100 盗塁 26 四死球 100
投手 勝利 9 敗戦 2 防御率 3.18 奪三振 156

トピックス

10/23：米国の野球専門誌「ベースボール・アメリカ」、2021年シーズン年間最優秀選手に大谷選手を選出！

10/26：大谷選手、米大リーグのコミッショナー特別表彰受賞、同賞は歴史的な功績を残した選手・団体に贈られ、過去の受賞数は15、日本人ではイチロー選手に次いで2人目。今季の投打の「二刀流」による歴史的活躍を評価！

『SYOHEI ニュース』は市医師養成事業関係者の情報紙です。

令和3年10月28日発行 奥州市医療局医師確保推進室

〒023-0053 奥州市水沢大手町 3-1 TEL0197-25-3833

奥州自慢コーナー：世界遺産候補地：白鳥館遺跡

世界遺産登録候補地「白鳥館遺跡（しろとりたていせき）」は、JR前沢駅の南東約3キロメートル、北上川と白鳥川が合流する付近にあります。遺跡は北上川に半島状に突き出た丘陵です。

この遺跡は、平安時代末期の豪族である安倍頼時（あべのよりとき）の八男、白鳥八郎則任（しろとりはちろうのりとう）あるいは行任（ゆきとう）の城といわれ、安倍氏が前九年合戦（1051～62）で源頼義（みなもとのよりよし）・義家（よしいえ）父子に敗れて滅亡した後、室町時代末期には白鳥氏が居城したと伝えられています。



白鳥地区の歴史は古く、平安時代中期（10世紀前半）に完成したとされる書物にすでに名前が見えます。それによると、白鳥は胆沢郡の郷のひとつであり、伝馬（でんば）5頭を常備する東山道（とうさんどう）の駅家（えきや）があったことがわかります。前九年合戦の記録には、康平5年（1062）



衣川関（ころもかわのせき）を破った源氏軍が白鳥村を通過したと記事があります。また後三年合戦のさなかの永保3年（1083）には清原真衡（きよはらさねひら）の館の襲撃を企てた藤原清衡らが、その道すがら白鳥村の在家（ざいけ）400戸を焼き払ったことが記録に見えます。これらの記述から、白鳥村は、古代以来、南北を往来する主要道の通過点であり、古代・中世においては経済・軍事上の重要拠点であったと考え

られます。

白鳥館遺跡では、平成15年と17年の発掘調査によって、10世紀から16世紀までの遺構や遺物が出土し、約600年にもの長期に渡って断続的に利用されていたことがわかりました。10世紀には集落跡であり、14世紀の後半には城館として大きく整備されたようです。この城館は15世紀にさらに大きく改修しており、現在見られる堀跡や土塁（どるい）などが作られたようです。11世紀と12世紀、安倍氏や藤原氏の時代については、どのように使われていたのかまだ確証が得られていませんが、この時期の土器や陶磁器などが出土していますので、なんらかの施設が存在したものとされます。

白鳥館遺跡がこのように長い間利用されたことは、ここが北上川交通の要衝であったことが主な理由と推定されます。白鳥館遺跡は、古代以来、陸上交通の要衝であった白鳥地区において、水上交通をも制する重要な拠点として利用された遺跡と考えられ、平泉文化を支えた北上川交通のあり方を考えるうえでも貴重な遺跡といえます。このことから、平成17年7月に「柳之御所・平泉遺跡群」として国史跡に指定されました。



所在地 〒029-4205 岩手県奥州市前沢字白鳥館 東北自動車道 平泉前沢ICから車で5分

問合せ先 奥州市教育委員会 歴史遺産課 TEL 0197-34-1317

その他 無料ガイド（4月下旬～10月の土日祝日と11月～3月の第2、4土曜日）